

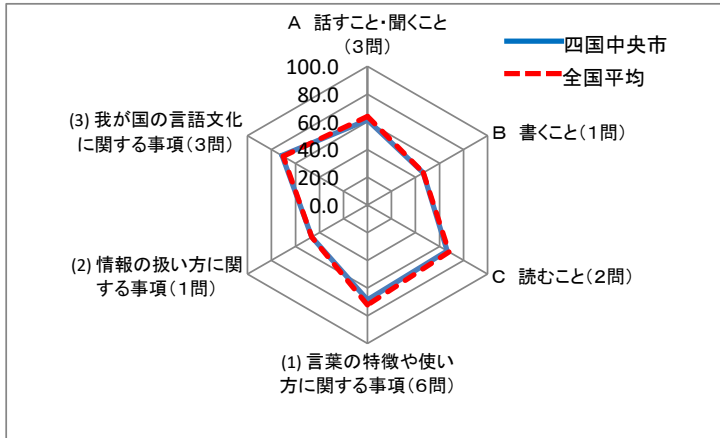
令和4年度全国学力学習状況調査の結果について四国中央市の中学生の状況についてお知らせします。

1 学力の状況

レーダーチャートは、各領域における正答率を示しています。項目の後の()内の数字は、対象問題数を表しています。問題によっては、複数の項目に含まれる場合があります。

国語科では、昨年度と比較してやや向上しましたが、全国平均をやや下回りました。数学科は昨年度と比較してやや向上しましたが、全国平均に比べてやや下回っています。国数ともに課題があるようです。それぞれの分析は以下の通りです。

国 語

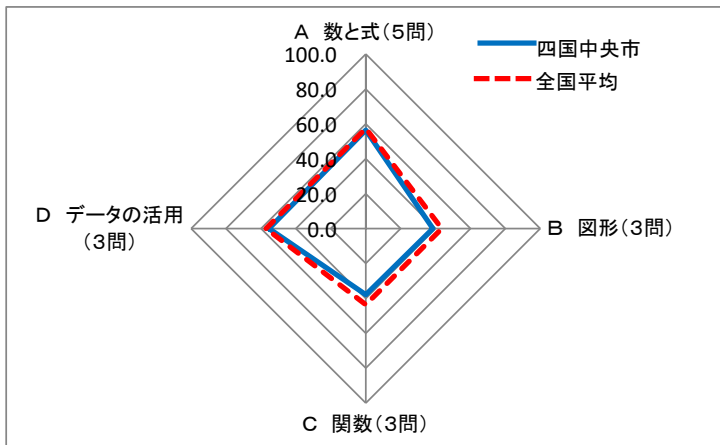


【国語分析】

「書くこと」「情報の扱い方に関する事項」については、ほぼ全国平均でした。「言語文化に関する事項」では、全国平均を上回り、書写の行書の書き方や漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方についての理解が深まっています。

「言葉の特徴や使い方にに関する事項」については、自分の考えを分かりやすく伝えるように表現を工夫して話すことや表現の技法について課題がありました。GIGAスクール構想で配備された1人1台端末を有効活用し、自分の考えを文章でまとめたり、それを基に話し合ったりする機会を増やしていきます。また、普段から言語活動を重視した環境づくりにも取り組んでいきます。

数 学

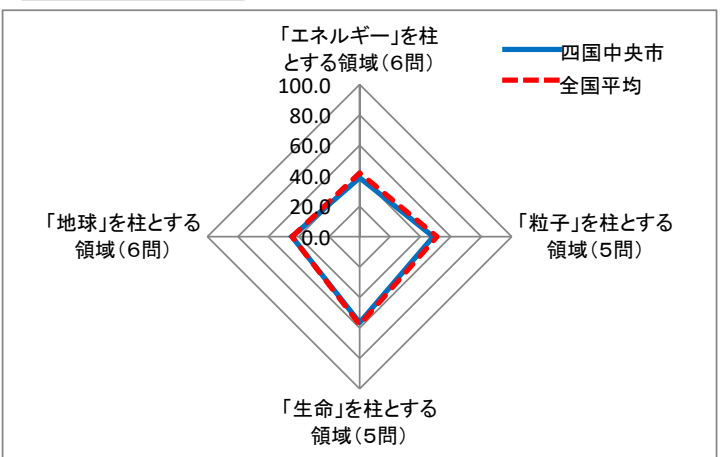


【数学分析】

素因数分解や確率についての正答率は、全国平均を大きく上回っており、理解が深まっています。しかし、その他の設問については、全国平均を下回り、「図形」「関数」の領域では課題が見られます。

特に一次関数の変化の割合の意味を理解しているかの問いでは、全国平均を大きく下回っています。また、日常生活や社会の事象を考察し、数学的に解釈し説明する記述式の問いでは、大きな課題が見られました。普段の生活とつなげた学習方法や答えを導き出すために、多様な考え方ができるように取組をこれまで以上に取り入れる必要があると考えます。そこで、1人1台端末を活用し、自分の考えを式や言葉で表現する機会を増やし、それを共有して多様な考え方に触れるような学習に取り組んでいきます。

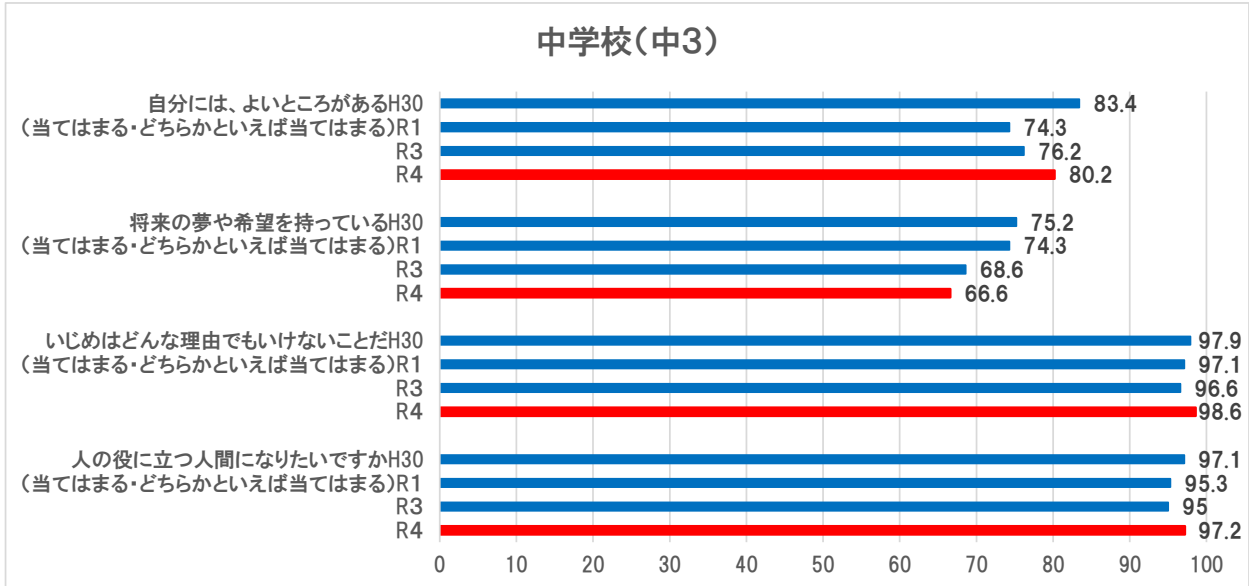
理 科



【理科分析】

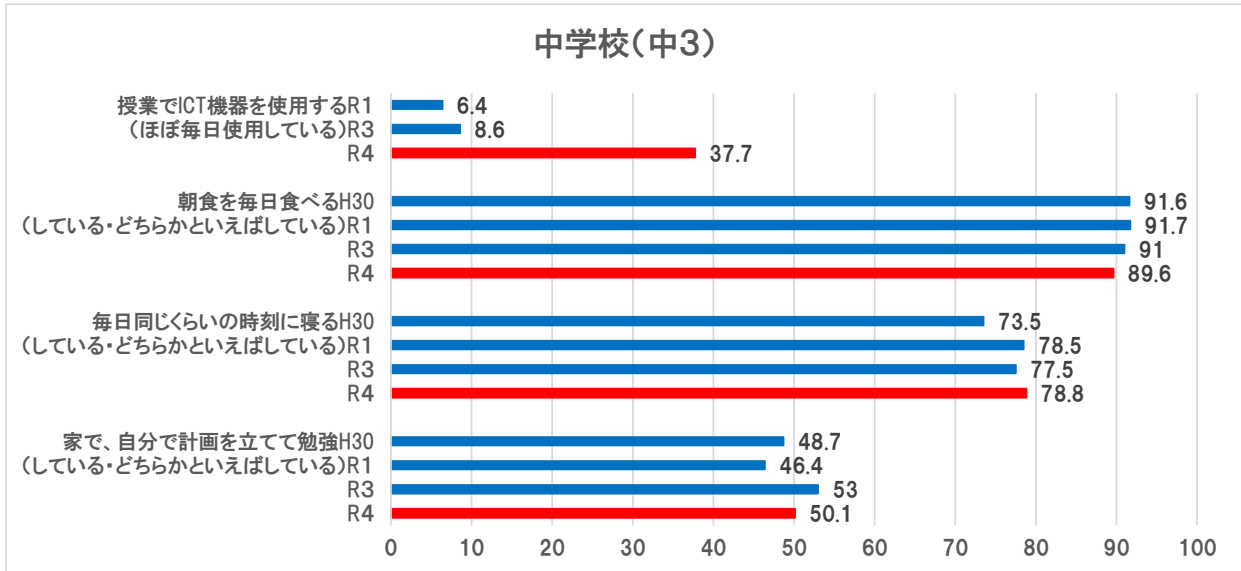
今年度は理科が調査されました。理科では、「地球」を柱とする領域では、全国平均をやや上回っていましたが、「エネルギー」を柱とする領域では、物体に働く力を矢印で表すなどの基本的な部分に課題が見られました。また、実験の計画を検討し、改善する力を問う設問では、数値や範囲の双方を正確に示さなければならず、誤答が多く見られました。実験・観察の重要性が問われていますが、本市では実験・観察の時間を、感染症対策も十分取った上で、確実に確保することができています。今後も実験・観察の時間を確保しつつ、1人1台端末を活用し、実際には見えない部分も端末で確認しながら考える学習に取り組んでいきます。

2 心の状況



3 生活習慣の状況

※生活の中にICT機器が大きく関わってきていることと、GIGAスクールの実現による確かな学力を基盤とした未来を拓く力の育成を目指している本市として、授業でのICT活用についての項目を今年度から掲載している。



【分析】

心の状況については、「自分には良いところがある」の自己肯定感に関する質問で、ここ数年確実に向上が見られます。お互いの良い所を認め合う活動に今後も継続して取り組む必要を感じています。しかし、「将来の夢や希望を持っている」の質問は、令和元年度以降連続して下降しており、コロナ禍による子どもへの影響が伺えます。全国平均でも同様の結果が出ていますが、十分な感染症対策を行い、将来に向け希望を持って学ぶことができる安全・安心な教育環境の実現に努めてまいります。

生活習慣の状況については、「朝食を毎日食べる」習慣が若干減少傾向になっていることが気になりますが、ほぼ全国平均と同じく高い水準にあります。また「毎日同じ時刻に寝る」についても上昇傾向にあり、規則的な生活習慣が定着していることが伺えます。しかし、「自分で計画を立てて勉強する」については、例年とほぼ同じ傾向ではありますが、全国平均を下回っており、家庭学習の取組に課題が見られます。家庭学習も宿題のみの学習ではなく、授業内容の振り返りや次の時間の予習など自主的な学習にも取り組んでいく必要があります。

※ 「ICT機器の使用」については、学校での活用になりますが、生活習慣にも大きく影響することから掲載しました。コロナ禍のこの3年間で授業でのICT活用が大きく前進したことが伺えます。